

朝日新聞 2010(平成22)年12月16日(木) 佐賀版 ぶらりミュージアム

ぶらり ミュージアム

県立美術館

佐賀藩2代藩主鍋島光茂(1632~1700)の子で幼少で死去した10人の肖像画10幅。延宝元(1673)年、数え年2歳で死去した三平から、元禄10(1697)年、3歳で死去した乙女(写真は部分)まで、いずれも光茂側室の靈寿院(~1713)が産んだ子たちになる。

寛文9(1669)年、光茂が円蔵院住職の村了和尚を斬罪に処して以降、光茂の子の不幸が相次ぎ、村了和尚を弔うため円福寺を創

因縁の和尚弔うために奉納

じゅうぶつぞう
十仏像

建、『十仏像』が奉納されたと伝えられる。

この10幅を描いた画家は不明で、乙女が死去した元禄10年以降、同時期に制作されたのだろう。

靈寿院の墓所は、光茂の御側役をつとめ、『葉隠』の口述者として知られる山本常朝(1659~1719)の金立山麓の隠居所に設けられた。

『十仏像』はテーマ展「葉隠とその時代」(来年2月13日まで)で展示している。

(県立美術館
学芸員 福井尚寿)

佐賀市城内1の15の23。電話0952・24・3947。バス停「博物館前」下車、徒歩1分。開館は午前9時半~午後6時(1月1~3日は開館)。休館日は月曜(ただし1月3日、10日は開館)と12月29~31日、1月11日。



作者不詳/縦62・7センチメートル、横28
6センチメートル/紙本着色/掛幅装/宗
龍寺(佐賀市)所蔵/掲載写真は部分